

東日本大震災後の避難が福島県住民における高尿酸血症発症に及ぼす影響
;福島県民健康調査

橋本重厚

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
福島県立医科大学会津医療センター 糖尿病内分泌代謝・腎臓内科学講座

著者

橋本重厚^{1,2}、永井 雅人^{1,3}、大平哲也^{1,3}、福間慎吾^{4,5}、細矢光亮^{1,6}、安村誠司^{1,7}、佐藤博亮⁸、鈴木 均^{1,9}、
坂井 晃^{1,10}、大津留晶^{1,11}、川崎幸彦^{1,6}、高橋敦史^{1,12}、岡崎加奈子¹、小橋 元¹³、神谷研二^{1,14}、山下俊一^{1,15}、
福原俊一^{4,5}、大戸 齊¹、福島県民健康調査グループ

1.福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、2.福島県立医科大学会津医療センター 糖尿病内分泌代謝・腎臓内科学講座、3.福島県立医科大学疫学講座、4.京都大学医療疫学講座、5.福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター、6.福島県立医科大学小児科学講座、7.福島県立医科大学公衆衛生学講座、8.順天堂大学代謝内分泌学講座、9.福島県立医科大学循環器内科学講座、10.福島県立医科大学放射線生命科学座、11.福島県立医科大学放射線健康管理学講座、12.福島県立医科大学消化器内科学講座、13.獨協医科大学公衆衛生学講座、14.広島大学原爆放射線医学研究所、15.長崎大学原爆後障害医療研究所

要約

目的: 東日本大震災後、東京電力福島第一原子力発電所の近くに住む 16 万人を超える住民は、原発事故による避難を余儀なくされました。これらの避難者における健康問題は、以来大きな問題となっています。私たちは、福島県民における、避難と高尿酸血症の発生率との関連を調べました。

方法: 私たちは災害時に福島にいて高尿酸血症ではなかった 40~90 歳の県民に対しコホート調査を行いました。災害前に試験対象基準を満たしていた 8,1739 人の県民のうち 4,789 人（男性 1,971 人、女性 2,818 人；フォローアップの割合：58.6%）に対し、災害後から 2013 年 3 月末までのフォローアップ検査を実施しました。日本痛風・核酸代謝学会の委員会がガイドラインで定義した高尿酸血症の発生率を主要な結果として、震災前後の健康診断のデータを用いて解析しました。避難の有無により、参加者を避難、及び非避難グループに分け、結果を比較しました。ロジスティック回帰モデルを使用して、年齢、性別、ウエスト周囲径、運動習慣、及びアルコール摂取等の交絡因子（結果に影響する他の因子）で調整し、高尿酸血症発生のオッズ比を推定しました。

結果: 高尿酸血症の発生率は、避難者では男性 10.1%、女性 1.1%、非避難者では男性 7.4%、女性 1.0%と、男女とも避難者は非避難者に比べて高い値でした。避難者は非避難者に比べ、震災後に肥満度指数、ウエスト周囲径、中性脂肪、空腹時血糖値、及び HbA1c が高くなっていました。私たちは、避難と高尿酸血症の発生率（調整オッズ比 1.38、95% 信頼区間；1.03~1.86）の間に有意な関連性を見出しました。

結論: 東日本大震災後に避難者では非避難者より高尿酸血症が発生しやすいことがわかりました。これは災害後の避難と高尿酸血症の発生率増加の関連を実証した初めての研究です。

掲載情報

「Clinical and Experimental Nephrology」 (2020 年)

Hashimoto S, Nagai M, Ohira T, Fukuma S, Hosoya H, Yasumura S, Satoh H, Suzuki H, Sakai A, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Takahashi A, Okazaki K, Kobashi G, Kamiya K, Yamashita S, Fukuhara S, Ohto H, and the Fukushima Health Management Survey Group

Clinical Experimental Nephrology (2020) 24:1025–1032.